

<2018年度 東京SJCD第3例会タイムスケジュール>

10:00～10:10 開会の辞

10:10～12:10 教育講演

今井俊広先生
臨床咬合[40年ぶれない軸]

12:10～13:30 ランチタイム

13:30～13:40 インフォメーション

13:40～14:40 一般講演1 (座長;加部先生)

島松 博先生
プロビジョナルレストレーションの再評価にて下顎位を決定した一例

14:40～15:00 コーヒーブレイク

15:00～16:00 一般講演2(座長;新藤先生)

榊原 墨先生
上下左右的に差がある歯列を機能的、審美的に咬合再構成した症例

16:00～17:00 一般講演3(座長;松本先生)

中野忠彦先生
Interdisciplinary Approach for Improved Esthetic and Functional Results

17:00～17:10 閉会の辞

会場内での写真・ビデオ撮影はご遠慮下さい。

☆☆ Society of Japan Clinical Dentistry ☆☆

☆ 日本臨床歯科医学会 ☆
2018年度 東京 SJCD 第3回例会のご案内

晩冬の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、来る3月3日(日)に開催されます2017年度東京 SJCD 第3回例会につきましてご連絡申し上げます。ご存知のように、現在デジタル化の波によって補綴治療は大きな変革期を迎えようとしています。しかしどんなにデジタル化が進んだとしても、生体と調和した補綴物を長期的に維持する上で『咬合』が重要な鍵であることは今後も変わらないでしょう。そこで午前の教育講演では今井俊広先生にご登壇いただき、『咬合』をテーマにお話ししていただくことになりました。今井先生の40年の臨床で培った多くの長期症例と、それらの結果に基づいた咬合論を教えてくださいます。また午後の一般講演も咬合がテーマとなっておりますので、熱いディスカッションが交わされそうです。

今回は咬合を改めて学ぶ絶好の機会となっております。皆様このチャンスを逃さないよう是非ともご参加下さいますようお願い申し上げます。

日時 2019年3月3日(日) 受付開始 9:30 / 開演 10:00~17:00

会場 都市センターホテル/コスモスホール 3F

所在地 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1 **TEL** 03(3265)8211

- 教育講演 -

- ・今井俊広先生
臨床咬合 [40年ぶれない軸]

- 一般講演 -

- ・島松 博先生
プロビジョナルレストレーションの再評価にて下顎位を決定した一例
- ・榊原 墨先生
上下左右的に差がある歯列を機能的、審美的に咬合再構成した症例
- ・中野忠彦先生
Interdisciplinary Approach for Improved Esthetic and Functional Results

- 教育講演 -

臨床咬合[40年ぶれない軸]

今井歯科クリニック

今井俊広

■ 略歴

1979年 東北歯科大学（現・奥羽大学歯学部）卒業

1979年 原宿デンタルオフィス勤務

1984年 University of Southern California 卒後研修コース

1987年 今井歯科クリニック開業

■ 所属

日本臨床歯科医学会指導医、SJCD 研修コースインストラクター、日本顎咬合学会指導医、日本臨床歯科医学会指導医、硬組織再生生物学会会員

■ 抄録

今は常識とされている Perio-prosthodontics、40 年前は補綴治療とペリオ？と驚いたものである。下顎位にしても中心位の定義は経年的に変換してきた。時代によって顎頭の位置は後方、後上方。1987 年に前上方と定義され、落ち着いたかに見えたが 1994 年には 7 つの位置に併記され、やっと 23 年ぶりに前上方に戻り、円板の記載もなくなった。1990 年代からの診査器機の飛躍的な進歩で、生体をメカニクに診る傾向があったが、近年徐々にまた生理的観点から捉えるようになってきたためであろう。

セオリーは時として変わる。しかし、一貫して守られてきた軸もある。40 年前に山崎長郎先生の門戸をたたき、Dr Kim にも紹介していただき臨床を直接目にし、貫いてきた軸である。若い先生方は知らないであろうが、40 年前から日本で咬合再構成治療に取り組んでいた山崎先生は、当時は「オーバートリートメントだ！」「犬歯誘導？天然歯はグループファンクションも多いではないか？」などと批判されたこともある。現在そのような批判は、的外れの批判であったと理解されている。歯科医師が治療介入するのであれば、その口腔内が長く健康維持できる環境を構築する。そのためのメカニカルストレスに対処する治療であったからである。そして実際長期に維持されてきた実績で証明してきた。

その基本軸の教えにしたがってきたのが私の臨床である。そのぶれない咬合の軸を伝える橋渡しになればと考えている。また、Airway-prosthodontics、最近使われてはじめての用語である。今は珍しいかもしれないが、将来常識になるであろう分野と考えている。そこにも今までの咬合の軸が必要となってくる。私もまだまだ勉強不足！と痛恨のこの頃であるが、airway の話も時間があればふれてみたい。

- 一般講演 -

プロビジョナルレストレーションの再評価にて下顎位を決定した一例

医療法人社団同仁会 ワタナベ歯科院

島松 博

■ 略歴

2014年 九州大学歯学部卒業

2014年 医療法人社団同仁会 ワタナベ歯科院勤務

2015年 東京 SJCD レギュラーコース受講

■ 所属

日本臨床歯科医学会会員

■ 抄録

日常臨床においてほとんどは Lytle & Skurow の分類 Class I 保存修復、Class II クラウン・ブリッジである。これらのケースにおいては顎関節や下顎位に異常はないという判断の下それらを変化させないように治療を進める。しかし、なんらかの原因により口腔内のバランスが壊れてしまった場合には、原因を除去し適正な位置に下顎位を戻して咬合再構成を行う必要がある。

本症例は酸蝕症により咬合崩壊してしまった口腔内を治療するため、wax up により下顎位を設定し、プロビジョナルレストレーションにて再評価を行い是正した。明確に見ることができない下顎位、咬合においては特にプロビジョナルレストレーションの再評価を行ない最終補綴物に活かすことが重要だと考えられる。

- 一般講演 -

上下左右的に差がある歯列を機能的、審美的に咬合再構成した症例

要町デンタルクリニック

榊原 壘

■ 略歴

1998年 日本大学松戸歯学部卒業

1998年 医療法人社団優誠会グリーンタワー歯科勤務

2002年 医療法人社団健聖会くりはし歯科医院勤務

2004年 医療法人社団伸永会原歯科医院勤務

2013年 要町デンタルクリニック開設

■ 所属

日本臨床歯科医学会会員

■ 抄録

患者は初診時41歳男性。主訴は右上クラウン、右下ブリッジの脱離にて来院された。よくよく話を聞くと、審美性の改善も同時に望まれていた。診査の結果、歯周炎をはじめ既存の補綴物、修復物全てに不適合及び二次カリエスを認めた。要抜去歯も認められた。成長発育による下顎枝の長さの左右差や、歯列弓の上下左右差を認めた。I.C.P.と顎頭安定位の不一致や顔貌に対する咬合平面のずれを認めた。問診よりT.C.H.(歯列接触癖)の存在が示され、既存の補綴物の咬耗やシャイニングスポットからパラファンクションの存在が疑われた。これらの事から全顎的な咬合再構成が必要であると診断し、プロビジョナルレストレーションを用いて再評価しながら段階的に治療を進めていった。前歯から臼歯へかけてフェイシャルな部分での審美性の獲得と臼歯部では咬頭の位置や近遠心的な幅をコントロールして機能性の獲得を行った。歯列の不調和のため下顎位の安定の獲得に苦労した症例であった。

今回のケースを通して学んだことを含めご報告させて頂きたいと思います。

Interdisciplinary Approach for Improved Esthetic and Functional Results

NAKANO DENTAL

中野忠彦

■ 略歴

2002年 朝日大学歯学部卒業

2002年 原宿デンタルオフィス勤務

2005年 鈴木歯科医院勤務

2013年 NAKANO DENTAL 開設

■ 所属

日本臨床歯科医学会会員

■ 抄録

高い審美的要求を主訴とし、複雑な治療を要する患者に対して、まずはマクロの視点から、顔貌、顎位、咬合、歯列など診査、診断を行い、問題点を明確にし、そこからどの分野の治療が必要となるかを判断しなければいけない。

さらに治療結果を長期的に保つために、最小の侵襲で最大の効果を得る MI のコンセプトに沿ったミクロの視点での精密な治療手技が不可欠である。

今回、開咬を伴う前歯部審美障害が主訴であるアナウンサーの患者に対して、矯正、補綴、歯周形成外科など包括的に治療を行った結果、審美的、機能的改善が認められた症例を発表させていただきます。